

19 我が街 船橋を歩く—神社仏閣(17) 稲荷神社—

29期 仲田 元昭

JR 船橋駅より徒歩3分程、前々回ご案内の道祖神社より10分程にある、本町1丁目の鎮守、稲荷神社（JR 船橋駅より最も近い場所にある神社）をご案内します。

「稲荷神社社殿」

稲荷神社の創建時期は不詳ですが、昔は今（東金御成街道）とは逆、社殿裏の古道側に向いていたと言われ、ご祭神は、倉稲魂神（うかのみたまのかみ）で、豊作を祈る神、商売繁盛を祈る神として、地元商店街の多くの方がお参りしています。

総本宮は、京都の伏見稲荷大社です。稲荷神社は、全国の神社の約三分之一（32千社程）と一番多く、船橋では神明神社に次いで2番目で8社と多くはありません。因みに母校のある江東区

には、稲荷神社が多く半分以上の35社もあり、商売繁盛を願う街であった事が窺えます。

神社周辺は、飲食店が多く大変賑わっている地域で、すぐそばに創業慶応元年（1865）、成田街道の宿場町の頃より、地元三番瀬・江戸前の新鮮な魚料理等で有名な割烹料理の「稲荷屋」があります。また近くには、太宰治が20日間程逗留し小説「めくら草紙」や「ダス・ゲマイネ」等の名作を執筆した、大正年間創業の割烹旅館「玉川」跡があります。

「狛犬・狐像」

稲荷神社を守る狛犬は、狛犬でなく稲荷神の神使である狐像ですが、大正11年（1922）に奉獻された以前の狐像の傷みがひどく、平成27年（2015）に新たに白狐像が奉獻されました。飲食店が多いこともあり、太って大変優しい表情の白狐です。



「稲荷神社 灯籠の先に狛犬(白狐) 社殿」



「稲荷神社の狛犬は稲荷神の神使の狐像、白狐が新たに平成27年に奉獻」

「20 我が街 船橋を歩く 神社仏閣(18)」西向地藏に続く 「2022-6-25 寄稿」